

文字ノ泉文庫



基礎からスルスルシリーズ

魔法学入門

魔法使い協会 編



目次

- 1. 魔法学の歴史
- 2. 基礎魔法学1魔科分離の法則
- 3. 基礎魔法学2人神分離の原則
- 4. 基礎魔法学3魔法アクセス論、効果<引き出し仮説
- 5. 実践学1呪文術
- 6. 実践学2薬術
- 7. 実践学3杖術
- 8. 実践学4魔法科学



CHAPTER 0

はじめに

INTRODUCTION

シシク・ハノン CICIC.HANON
生活空間の大魔導士

皆さんは魔法と聞いて、どんなものを思い浮かべるでしょうか？

「なんでもできる夢のような能力」「犠牲を伴う強大な力」「選ばれた者が起こす不思議な現象」

これらのイメージはどれも正解であり、また、不正解でもあります。魔法初学者は、魔法が引き起こす効果については知っていても、どのようにして魔法が発生するのかを捉えきれていないのです。

私たちは魔法というと、ついつい「何ができるか」「なんの役に立つのか」ということだけに注目してしまいます。しかし、「なぜ魔法を使えるのか」を理解しなくては正しく魔法を運用することができません。

魔法使いにとって、基礎的な魔法理論を知ることが不可欠なことです。

本書は魔法使いの初学者が、魔法学の基礎をまんべんなく理解できるようになっています。基礎魔法学をしっかりと理解し、安心安全な魔法運用に努めましょう。

CHAPTER 1

魔法学の歴史

HISTORY OF MAGIC RESEARCH

シシク・ハノン CICIC.HANON

生活空間の大魔導士

1. 魔法使いの誕生

魔法使いは神庭暦が始まった頃に誕生したといわれている。神庭記によると「はじめの3人」のうちの1人が夜神の眷属となり、やがて魔法使いの力を得た。

つまり、最初の魔法使いは夜魔法使いだった。夜魔法に基本的な読解魔法や基本易学魔法陣が含まれているのは、この名残だと考えられている。

その後、魔法使いは徐々に数を増やし、夜神以外の自然神にも仕えるようになっていった。当時の魔法は絶大な力を誇り、魔法使いは国家の要職に欠かせない存在であった。

しかし人神戦争で魔法使いが神殺しの勢力に加担。それを理由に神罰を受け、のべ1000年間の魔封期間に突入した。

最初の魔法使いの誕生から、魔封期間までの間を魔法の黎明期という。

2. 魔法学の始まり

魔法学は魔封期間の2100年代終盤に誕生した。魔法の原理原則を精査し、安全で継続可能な魔法運用を模索するのが目的であった。

第3ユキの刻までの初期魔法学は、魔法実験など、効果測定に偏った研究がなされた。この時代の魔法学は、7元論や魔力エネルギー論などが有名である。

この時代の魔法学は、科学的思考法に強い影響を受けている。魔法が十分に使えない環境において、科学研究が有する再現性・信頼性は魅力的に映った。魔法使いは魔法の体系化・科学化を目指したのである。

その後、第4ユキの刻で魔法粒が発見され、科学的思考に基づいた魔法研究は最盛期を迎える。魔法粒の活性と移動が、魔法効果を生み出すことが確認された。

しかし、魔法粒と効果発生のプロセスに魔法使いがどのように関与しているのかは全く明らかにならなかった。科学的思考に基づいた魔法学は行き詰まり、魔法学が当初目指していた再現性・信頼性のある魔法が実現することはなかった。

3. 魔封明けと魔科分離

第5ユキの刻では復活祭に向けて魔法使いの組織化が図られた。人神分離の原則が世界の魔法使い全員の合意となり、初めて魔法大原則ができた。人神分離の原則は、現在も三大魔法原則として魔法使いたちに遵守されている。

人神分離の原則を整備したことで神々の許しを得た魔法使いは、魔封期間を脱することができた。

魔封明け以降は、魔法使いの主観的視点に立った魔法学研究が増え始めた。この潮流は、魔法学魔法派と呼ばれる。科学と魔法の違いを精査し、魔法学の発展には魔法使いの感覚や主観を採求することが必要だと考えた。

魔法学魔法派の思想は、科学と魔法の混同による学問的・社会的衝突を危惧する魔法使いや科学者たちに受け入れられた。そして4000年代初頭には、魔科分離という研究原則として多くの魔科学者に合意されるようになった。

4. 現代の魔法学

魔科分離が一般的になった後の魔法学は、飛躍的に発展した。様々な発見がなされ、画期的な理論も次々と発表された。

その中でも今日の魔法学に影響を与えたのは、ソルトジンジャーの人神比較論、フライペッパーの引き出し統合論である。前者は現在の魔法アクセス論の基礎理論となり、後者は効果<引き出し仮説の根拠となった。

魔法学は現在、魔法アクセス論や効果<引き出し仮説を基本とした見解が主流である。これらの論に基づいて、基礎研究よりも実践的な魔法研究を進める魔法使いが増えている。

また、5800年代に東部地区が整備される頃には、世界魔科学会議において魔科分離の法則が正式な魔科学間協定となり、すべての魔科学研究者の合意事項となった。

魔科分離の法則が合意されたことで魔法学と科学の風通しは良くなり、現在は研究の相互尊重に基づく協力的な関係を築けている。学際的な研究も進められ、魔科学共に発展を続けている。

[画像] 魔法学と科学の協働研究で開発された技術の例



ワープゲート



テレビンユ



タイムマシン

THREE MAJOR PRINCIPLES OF MAGIC



魔法の三大原則

魔法使いでない人々の中には「魔法は何でもアリ」と考えている人もたくさんいるようだ。

確かに魔法は科学に比べて原理原則が定まらず、比較的自由的な効果と運用が可能な技術といえる。しかし、魔法にもその効果と運用が許す範囲があり、禁止される内容もある。

ここからは魔法使い全員が共通して遵守すべき魔法の三大原則について学んでいこう。



CHAPTER 3

魔科分離の法則

SEPARATE MAGIC AND SCIENCE

サジノオオサキ SAJI-OHSAKI

時空の大魔導士

1. 魔科分離の法則の定義

魔法学には三大原則がある。その第1原則が、魔科分離の法則である。

この法則は、現在の魔科学社会で最も効力を発揮している原則といえる。魔法学と科学、どちらの領域でも遵守される。魔法と科学に関わる者は、全員が理解しておくべき原則である。

魔科分離の法則というとき、第一回世界魔科学会議で合意された協定をさす場合と、魔法学魔法派の定義をさす場合がある。

魔科学研究の際にガイドラインとして従うべきは協定版の定義であるが、一般に魔科分離の法則という時には魔法学魔法派の定義をさす場合が多い。

魔法運用の際には、前者は資料として手元に置くようにし、後者は記憶しておくことが望ましい。

魔科学協定の魔科分離の法則

1. これは、魔法学と科学の共存と発展を目指し、異なる学問体系を尊重し、魔科学間の紛争を防止するための協定である。この協定は魔法学あるいは科学を研究し、発表する者すべてが合意する。

2. 自然界で発生する現象は、魔法学的観点・科学的観点のどちらからも独立して説明することができる。しかし、どちらかの視点に基づいた解釈・理論を、もう一方の視点から説明し価値判断を付することはできない。

3. 魔法学的観点から研究される学問と科学的観点から研究される学問は、その思考法や基本的価値を異にするものである。研究者は、同一理論における魔科学の理論混同を避けるように努める。

4. 3は魔法学と科学を両方研究する者を否定するものではない。ただし、2で示した通り、魔科学理論の混同や、同一理論内で魔科学解釈を都合よく取捨選択するような理論展開は避けるべきである。

5. 魔法学と科学は一方向的な価値観を押し付け互いの発展を阻害しうるような態度・言説を拒否し、これを批判と認めない。また、かのような態度・言説に基づく嫌がらせを防止し、被害者の救済に努める。

6. 魔法学と科学はこの協定に基づく態度で研究がなされる限りにおいて、領域をまたいだ自由な協働研究を推奨する。魔科学協働研究を記録した論文は、同一論文内に魔科学両方の理論・解釈を記載する場合がある。ただしその際においても、魔法学的視点に基づく言及と科学的視点に基づく言及は章・節を分けるなどして混同を避ける。

7. 魔科学協働研究において魔科学の理論分離が難しく、かつ、研究成果が有用な場合は、その旨を注釈として記載してから理論展開する。ただしこの場合はより一層、魔科分離の法則2・3の遵守が監査されるべきである。

魔法学魔法派の魔科分離の法則

「自然界で発生する一つの現象は、どのような現象も魔法と科学の両側面から独立して説明することができる。しかし、どちらかをもう一方で証明することはできない。」

2. 初期魔法学の知識

魔科分離の法則は、魔法学魔法派の思想から成立した。

魔法学魔法派はそれまでの科学的思考に基づいた魔法学研究の姿勢を批判し、魔法使いの感覚や主観を重視した研究を重視した。

ただし魔法学魔法派の主張はあくまでも初期魔法学の研究結果をもとに、その行き詰まりを指摘し、発展させたものである。それまでの科学的魔法学研究を軽視するものではない。

むしろ、魔科分離の法則に至るまでの魔法学研究の変遷を知ることが、新しい魔法学研究には必要である。

以下に、魔科分離の法則に影響を与えた初期魔法学の代表的研究をまとめておこう。

ソトーとナブハイオの効果測定研究

初期魔法学は効果測定を重視し、魔法効果を体系的に整理することに成功した。

ソトーは、魔法効果は自然7神の司る元素によって分類できるとし、魔法7元論を提唱した。

ソトーの効果分類は、現在も慣習的に使用されている。しかし、神による魔法と魔法使いが使う魔法は別の現象であるため、混同を避けるために学術分野では使用しない。ソトーの神魔一元主義を反証した実験は、コズモネアズサの結界実験が有名である。

ナブハイオは、物理学の科学知識を応用し、魔力はエネルギーとして科学的に説明できると主張した。

ナブハイオの主張は、現在科学・魔法学の両方から否定されている。魔力はエネルギー保存の法則が当てはまらず、科学的に説明できない。また、魔力は科学的因果関係の説明できない要素（儀式、呪文、感情の起伏）で増減させることができ、しかも再現性・定量性がない。

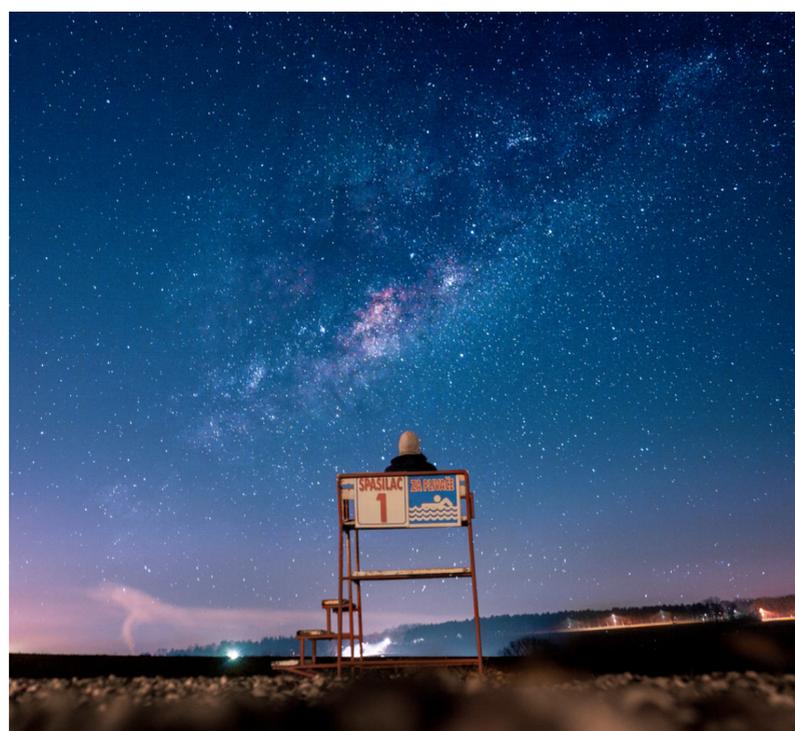
魔法粒研究

初期魔法学では伝統的な価値や、科学的な視点に基づいて魔法を説明しようとする研究が多かったと言える。初期魔法学は、魔法粒の発見にたどり着き最盛期を迎える。

第4ユキの刻、星くず天文台にてヘイディー⇄ザックが魔法粒の粒子を観測することに成功した。魔法粒は世界の全ての空間・生物・物体にまばらに存在し、常に移動していることがわかった。

また、第4モドリの刻にはセノヤタツモリが魔法粒の活性と不活性を観測した。セノヤフジミネは非魔法系人類が活性化した魔法粒を移動させて魔法を発動させる実験に成功した。（しかしこの実験は非魔法系人類とされる被験者の出自に疑義があり、現在では結果を支持されていない）

一連の研究において魔法粒の活性と移動が、魔法効果を生み出すことが確認された。



[画像] 星くず天文台

科学的視点に基づく 初期魔法学の限界

初期魔法学研究は、魔法効果を分類し、効果が発生する仕組みに魔法粒が関わっていることを突き止めた。この研究は現在の魔法使いの魔法運用や魔法道具の基盤となっている。

しかし初期魔法学は、魔法使いがなぜ魔法を使えるのか？という疑問に行き着き頭打ちとなった。

魔法粒を活性化させることで魔法効果を得られるならば、理屈の上では誰でも魔法が使えるはずである。ただし魔法使い以外が魔法使いと同様の魔法を使用できるようになる方法は開発できなかった。

このような状況に対し、魔法学の科学傾倒を批判する声上がり、魔法学魔法派と呼ばれるムーブメントが起こった。そして魔科分離の法則が確立されるに至ったのである。



〔画像〕魔法学魔法派の解散集会



ちよっとブレイク

魔法学魔法派

魔法学の出現によって、魔法使い＝魔法研究者という認識が一般的になった。魔法使いとしての立場と個人の社会的立場は同一視されており、研究思想がそのまま政治的立場として認識される時代でもあった。

その中で、より魔法使いらしい魔法を探求しようとしたのが魔法学魔法派だ。彼らは当時の風潮に漏れず、研究グループでありながら政治的な集団でもあった。

彼らは魔法使いを直感的で主観的な存在だと位置づけ、より自由な魔法効果や引き出しを追求していった。彼らの主張は魔法使いの性質になじみ、魔法社会で主流を占めるに至った。

しかしその影響で魔法使いの個人主義化も進むこととなった。魔法使いの思想集団も解体された。魔法学魔法派は自らの主義主張によって消滅してしまったのである。



CHAPTER 4

人神分離の原則

SEPARATE PEOPLE AND GODS

ミツフネナミジ NAMIJI MITSUFUNE

水流の大魔導士

1. 人神分離の原則の定義

魔法学の第2原則は人神分離の原則という。人たる魔法使いが使用する魔法と、神々の司る神術は全く別の現象である。

魔法使いの魔法は、自然界に起こりうる現象を因果関係不明のまま発生させる。対して神術は、あらゆる現象事象を生じる可能性がある。

魔法使いは神々の神術を模倣できる可能性はあるが、神術を使うことはできない。

2. 人神分離の原則の成立

人神分離の原則は、人神戦争後の魔封期間の反省として魔法使いに共有された。魔法使いたちが人神分離の原則合意に至るまでの経緯は、初期魔法学の研究動向から読み取ることができる。

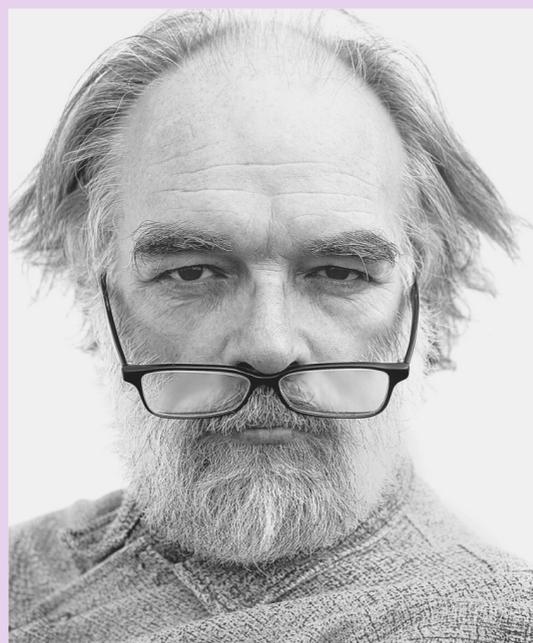
魔法と神術の同一視

初期魔法学では長年、魔法と神術が同一のものか否かが議論されていた。ごく初期の魔法学には、魔法と神術を同一視する傾向が認められる。



科学的視点に基づいた魔法効果の分類研究から魔法7元論を唱えたソトーは、神魔一元主義を唱えた。

魔法と神術はどちらも究極的にはエネルギー移動現象であり、その点で魔法と神術は同一の現象だと主張したのである。彼は「両者の違いは魔法効果の程度の違いである」とし、魔法は神術に準ずる業だと考えた。



[画像] ソトー

「魔法学の父」ソトー。現在は否定されている学説ばかりだが、魔法学初期の礎を築き尊敬されていた。魔法学の父とは魔法学を生んだ偉大な人という意味。頭の固いおじさん学者という意味ではない。

これに対して、神庭島の祭司で魔法使いだったハノーは、魔技神授説を唱えた。

人類の中で魔法使いだけが魔法を使えるのは、神々が魔法使いにだけ魔法を授けたからだと主張し、魔法は神から賜った恵みの業であると唱えた。

初期の魔法学は人神戦争の直後であったため、魔法使いの選民思想が色濃く残っていた。神殺しと魔封への反省が不十分であったといえよう。

魔封の深刻化と人神分離の一般化

神術と魔法の同一視が続く中で、魔法が使える土地は加速度的に減少していった。

第4ユキの刻に入ると自然7神教会が連携を取り始め、人々に神術を授け始めた。神札として与えられた神術は、非魔法系人類を中心に普及していった。

魔法の使用可能エリアと反比例して拡大していく神術エリアに対して、魔法使いは認識を改めさせられることとなる。

第4モドリの刻には、魔学研究に神魔比較派が出現した。神術と魔法を同一のものとする従来の価値を批判し、神術と魔法の違いを解明しようとするグループである。

コズモネアズサは結界を利用した神魔比較研究を行った。魔法を使用できない結界を張ってある実験室の中で魔法使いと非魔法系人類が同種の魔法と神術を使い、魔法と神術が別のものであると証明した。

人神分離の原則が成立

神魔比較派の研究は、神術と魔法が別物であることを次々と証明した。魔法使いの間でも神術と魔法の分離が一般的になり、自然7神教会との対立構造はなくなり始めた。

第5ユキの刻では、自然神教会の組織化に影響を受けて魔法使いの組織化が進んだ。

魔教連携が強くなっていくにつれ、魔封明けに対する魔法使いの期待も高まった。期待の高まりと連動して、内外から、魔法使いが連帯して魔封明けに資することが求められるようになった。

このような潮流を受けて魔法使い協会が成立。協会創設集会にて、人神分離の原則が魔法使い全体で合意された。

3. 人神分離の原則の意義

人神分離の原則は、魔法と神術の同一視を否定した原則である。

魔封を二度と引き起こさないためには、魔法と神術を同一視することなく神々への敬意を払って魔法を運用しなくてはならない。魔法の恩恵を受けるすべての人々によって、人神分離の原則は遵守されるべきである。

また、個々人の安全な魔法運用のためにも人神分離の原則は必要である。魔法と神術の同一視を続けていると、我と神々との境を見失い、重大な呪いや疾患に陥るおそれがある。

擬神術の扱い

一方で、人神分離の原則は神術的な魔法（擬神術）の使用可否を規定したものではない。

神術に似た魔法を使用しても良いかどうかは、今日まで論争が続いている。魔法国家によっても法制度が異なり、統一見解はいまだ現れていない。

神術に似た魔法（擬神術）を禁止しているのは、東魔法大陸の諸国家や魔境帝国である。西魔法大陸や神庭島の一部地域では禁止されていない。

人神分離の原則は魔法使いが合意するべき大原則であるが、その周辺事項については個々人が省察し判断するべきである。



CHAPTER 5

魔法アクセス論、 効果<引き出し仮説

MAGIC ACCESS THEORY & "MEANS BEYOND RESULTS" HYPOTHESIS

シュジュチュチュ SHUJUTUCHU
果樹の大魔導士

1. 魔法アクセス論

現代の魔法学は、魔封期間明け以降の数多くの研究を基に発展してきた。

世界的な動向としては、始祖神の人身一致や王滅運動、東西魔法大陸の諸国家の成立などさまざまな事が起こった。魔法使いはそれらの歴史上の大事に関わり、それに影響されて魔法学も進歩した。

基礎魔法学の最終章である本章では、魔法学第3原則である魔法アクセス論と、効果<引き出し仮説を説明する。

魔法とは世界へのアクセス権を一時的または継続的に獲得することである。

しかし魔法はあくまでも人的なものであるから、世界の側から見て魔法が歓迎されているわけではない。

我々が持っているパスは、あくまでも掠め取ったものとして扱われることだ。

ここに人たる魔法使いと神々の違いがある。

フライペッパー (5805) 『魔法アクセス論-人神比較論再考-』より

先に紹介した文章は、フライペッパーが記した魔法アクセス論の定義にあたる部分である。彼はソルトジンジャーの人神比較論を再解釈し、自説の効果<引き出し仮説と併せて魔法アクセス論を成立させた。

ソルトジンジャーの人神比較論

フライペッパーの魔法アクセス論は、ソルトジンジャーの人神比較論を基盤にしている。

ソルトジンジャーによると、魔法について、魔法使いの固有の力ではない。魔法は世界がもたらす現象であり、魔法使いはその恩恵を受けているに過ぎない。

そして魔法使いが世界から魔法を使うことを許されている理由は、ひとえに神々がそれを黙認しているからである。魔法使いは神々から選ばれたからわけではない。むしろ、魔法使いは神々の業を盗んだという方が正しい。

ソルトジンジャーの研究は神庭記の分析など、古式の神学的研究に基づいている。しかしこの論を発表した当初、彼の研究は全く受け入れられなかった。

ソルトジンジャーの人神比較論は「神々は超巨大な魔力を持つ魔法使いとは言えないか？」という仮説を検証していくものであり、人神分離に反していると思われたからである。

彼が活躍した4000年代初頭は、始祖神が降臨し自然7神ブームが起こった時代であった。魔法使いと神々の間にある歴然たる違いを、仮説反証から証明していこうとするソルトジンジャーの真意は魔法使いにも民衆にも伝わらなかった。



【画像】ソルトジンジャー

早世した天才魔法使い、ソルトジンジャー。一万年以上の運命論的寿命を有していたとも言われるが、その生涯はたった29年で終わった。彼が論文を発表したのは、28歳から死去までの1年と3か月。その期間は「奇跡の15か月」と呼ばれる。

ソルトジンジャーからフライペッパーへ 魔法アクセス論の成立

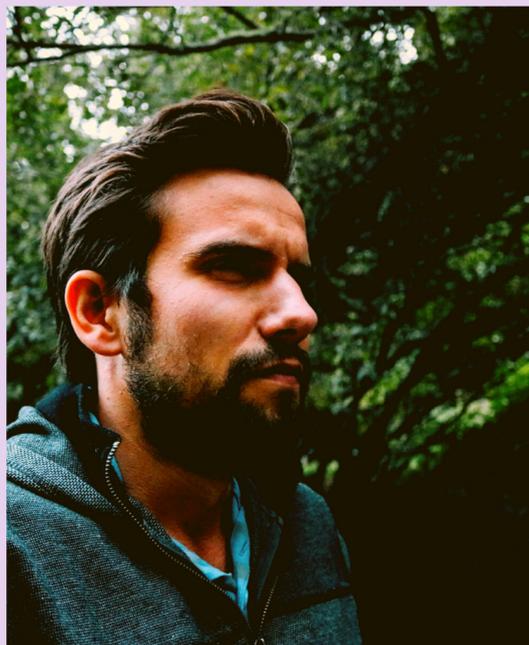
ソルトジンジャーの研究が日の目を見たのは、彼の死後2000年以上たってからであった。

5600年代後期、フライペッパーは研究チームを組織し魔法アクセス論を構築しはじめた。

彼のチームは初め、多数の引き出しと効果の関係を調査し、引き出しと効果の関係を実験により検証していた。その結果、引き出しと効果には法則性がないことが証明された。

この結果を踏まえて、フライペッパーが証明しようとしたのが「効果<引き出し仮説」である。「効果<引き出し仮説」とは、魔法について検証するときには最終的にもたらされた効果ではなく、世界から魔法を引き出すことを可能にした諸条件に注目すべきだとする説である。

フライペッパーは長年の魔法学的常識をひっくり返す仮説の検証に苦慮したが、5700年代の後半に、ソルトジンジャーの人神比較論と自身の仮説が「因果関係の空白」という共通点を持っていることに気付く。そして5800年代には魔法アクセス論を成立させた。



【画像】フライペッパー

万能の魔法使い、フライペッパー。あらゆる領域の魔法を使用でき、若くして成功した。東部地区の成立にもかかわる。「論文は速筆即発表」がモットーだったが、魔法アクセス論の構築には実に200年以上を費やした。

2. 魔法アクセス論の今日的影響

魔法アクセス論は、現代魔法学に大きな影響を与えた。この論は先に共有されていた魔法大原則（人神分離、魔科分離）と相性が良く、魔法学を魔法使いらしい学問へと昇華する鍵概念となった。

魔法アクセス論以降、魔法学は科学との違いに悩むことなく、魔法使い独自の世界を重視して発展できるようになった。魔法学魔法派は魔法と科学の違いを直感的・確信的に訴えたが、それでも因果関係や客観性・再現可能性に縛られる魔法使いは多かったのである。

フライペッパーは魔法アクセス論以降、魔法公益学など魔法運用の倫理規範の研究も精力的に行い、今日の魔法社会の礎を築いた。

ちょっとブレイク

人神比較論

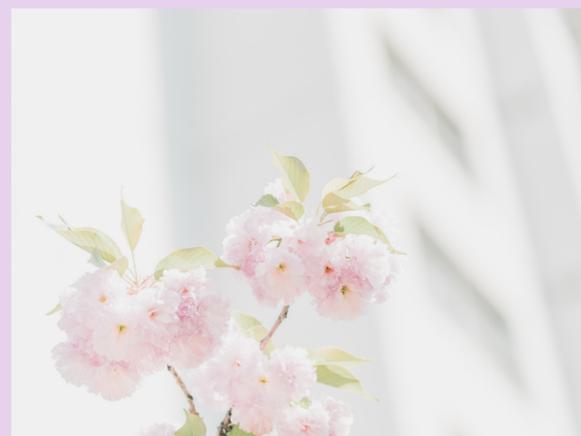
ソルトジンジャーの人神比較論はフライペッパーが魔法アクセス論に引用したことで有名になった。現在ではソルトジンジャーの代表作と認識されている。

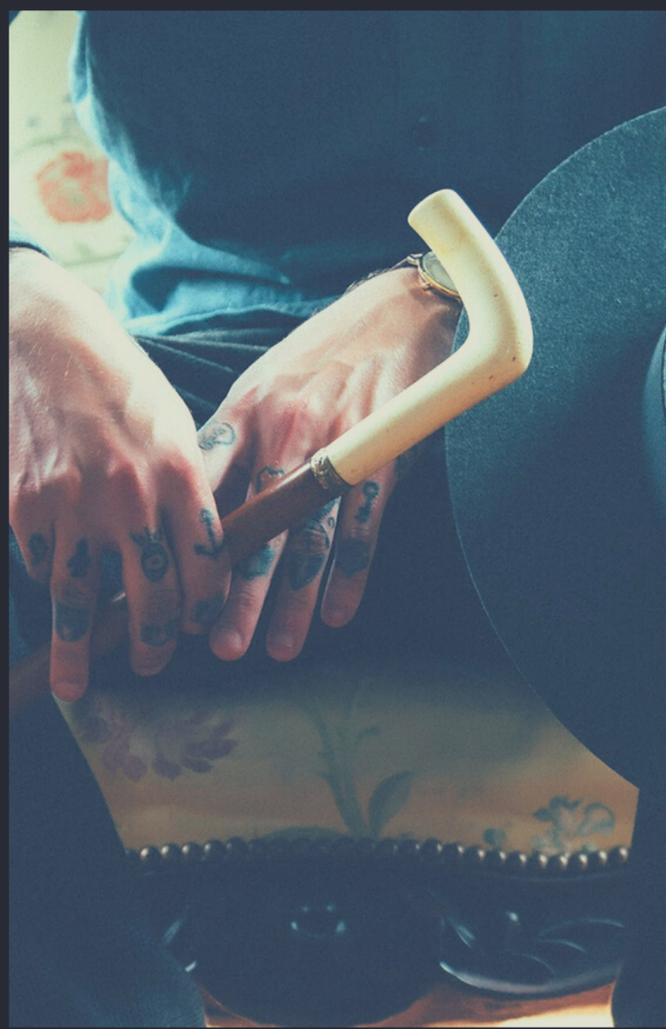
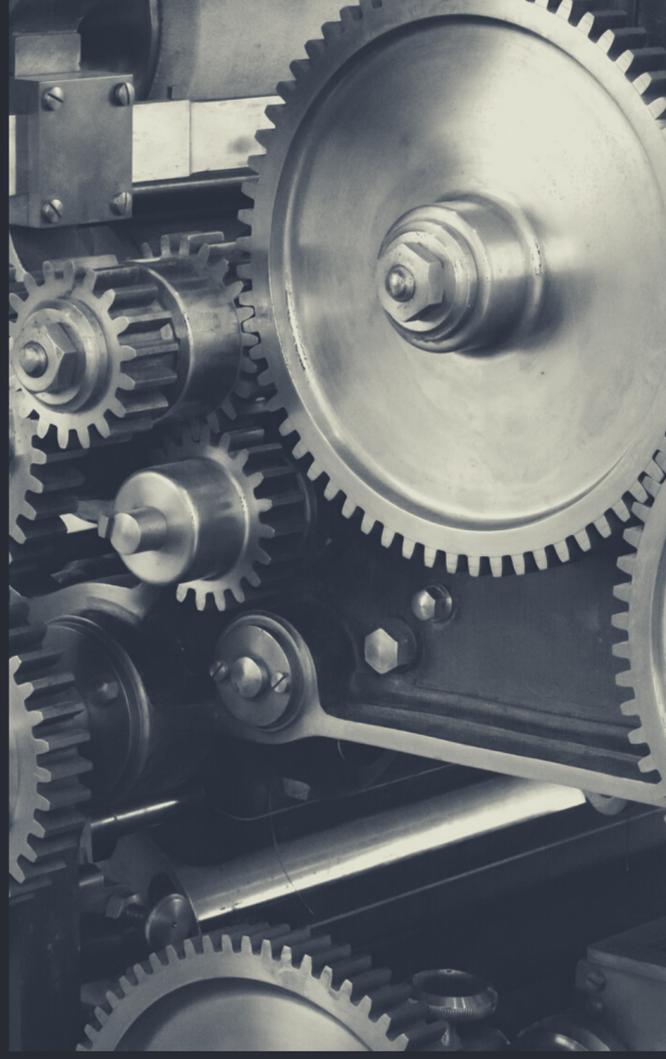
しかし、実は彼はこの論文を最後まで完成させてはいない。超有名論文は遺稿継筆によって完成された。

人神比較論はソルトジンジャーの絶筆であった。彼はこの論文を半分以上書き残したまま、この世を去った。

途中までの原稿と、書かなかった残り半分以上を記したメモは、彼の友人に相続された。その友人が100年かけて完成させたのが、人神比較論である。

フライペッパーはこの遺稿完遂について、「魔女達の解放と並び立つほど素晴らしく、世界に誇るべき偉業」と絶賛している。そう。ソルトジンジャーの遺稿を引き継ぎ、100年もかけて完成させたのは、花の大魔導士マーデルローズであった。

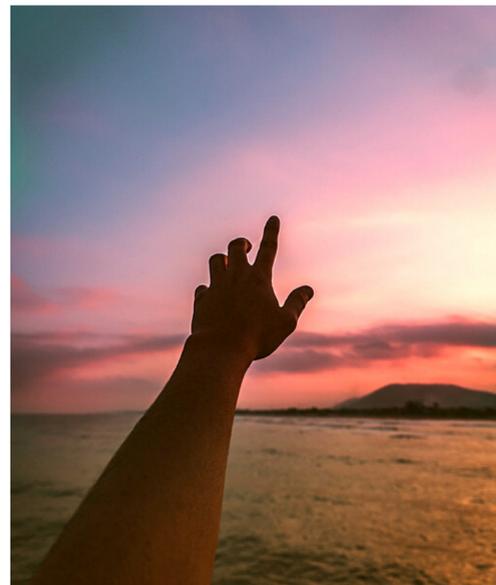




実践学

Practical learning

魔法使いにとって実践は熟考よりも尊い。とはいえ、実践の前にも基礎的な知識は必要だ。ここからは魔法の引き出し方法とその特徴、倫理的運用について学んでいく。
実技が始まる前に、しっかりと覚えておこう。



CHAPTER 6

呪文術

CAST A SPELL

マーデルローズ MARDEL ROSE
花の大魔導士

1. 呪文術とは

世界から魔法を引き出すための手段を一般に「引き出し」という。魔法使いは個々人に合った方法で魔法を引き出すため、厳密な引き出しは無数にあるといえる。

しかし個々人の引き出しは類似点を共有しており、類似する引き出しを統合していくと大きく4つの系統に分けることができる。

呪文術は、言葉やそれに付随する音声によって魔法を引き出す引き出しである。

引き出しの中でも歴史が古く、多くの魔法学校でも共通課程として採用されている。他の引き出しと比べて、失敗が少なく画一的な効果を得られる特徴を持つ。

呪文の分類

呪文は大きく2種類に分けられる。一つは汎用呪文、一次呪文と呼ばれるものである。もう一つは専用呪文、二次呪文と呼ばれるものである。

前者は魔法使い個々人が独占的に所有する呪文である。呪文を唱え、その時々に必要な効果を得る。後者は魔法使いの共有財産としての呪文である。呪文を唱えると、いつも同一の効果を得られる。

汎用呪文と専用呪文の獲得は、特に関連づけることなく独立して獲得できる。

しかし魔法学校が一般化した現代では、専用呪文を習得したのちに汎用呪文を開発することが多い。魔法学校の卒業研究として、汎用呪文の獲得を課している場合もある。

汎用呪文と専用呪文の違いは、引き出し方法にもある。

汎用呪文は魔法使い個人が世界から承認されることで使用できる。これを直接契約魔法という。

一方で、専用呪文は先達の魔法使いと世界の結びつきを貸与される形で使用できる。これを間接契約魔法という。

総合すると、呪文術は世界との契約によって魔法を引き出す引き出しであるといえる。よって、呪文術を用いる魔法使いは世界契約論について十分な知識を有する必要がある。

2. 呪文術の運用

呪文術の実際の方法としては、次の順に普及している。発声詠唱、杖帯詠唱、読字、紙上筆記、手技詠唱、無発声詠唱、空中筆記、その他。

以上のうち、杖帯詠唱や紙上筆記は杖術と混同されることがある。しかし、これらは呪文術を成功させるために物体を用いる方法である。非言語的魔法引き出しの集中点として物体を用いる杖術とは、根本的に異なる。

呪文の倫理的運用

呪文術は多くの魔法使いが使用する引き出しである。それゆえに、より一層の倫理的な魔法運用を求められる。

魔法一般の倫理的運用は各論で履修する内容であるが、呪文術に関する倫理的運用の指針をまとめておこう。

汎用呪文の倫理的運用

汎用呪文は個々人の魔法使いが占有する呪文である。他者との共有リスクは小さいが、呪文の個人管理に伴うリスクは大きくなる。

汎用呪文は魔法個人の感情や意思に属するため、汎用呪文を有する魔法使いはその心身を良好に保つように心がけなくてはならない。呪いや精神疾患は、汎用呪文の消滅や暴走の誘因となる。

呪いを防ぐためには、規則正しい生活を心がけ、冬季には呪いを拾わないように気を付けよう。生活上の些細な呪いを受け取らないような態度を身に着け、重い呪いを受けた場合は迅速に解呪師に相談するようにしよう。

重篤な疾患や呪いによって汎用呪文の管理ができなくなった場合は、一時的もしくは恒久的な汎用呪文の停止措置を取らなくてはならない。そのような場合には、意思決定が困難になることも多い。

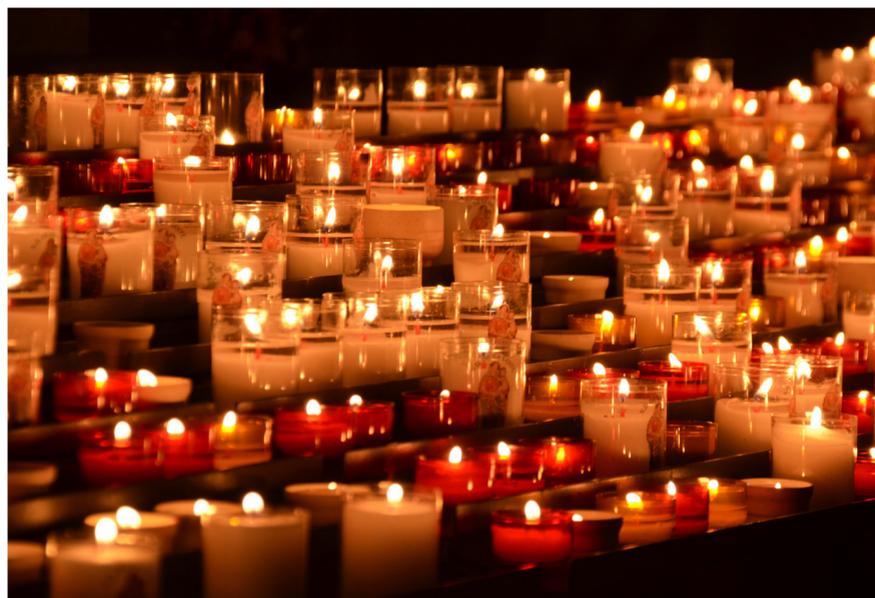
普段から魔法協会の登録情報を更新し、いざというときに自身の汎用呪文が悪用・暴走されないように努めよう。

一般呪文の倫理的運用

一般呪文は魔法使い全体で共有する呪文である。呪文を使用する際には倫理観をもち、一般呪文の世界契約存続に努めなくてはならない。

一般呪文は先達の魔法使いが遺した財産である。身勝手な運用で呪文を消さないように注意しよう。

一般呪文取扱機関を通さず個人的に一般呪文を契約した場合は、よりきめ細やかなメンテナンスを行わなくてはならない。契約時に通達される吊いを欠かさないようにし、契約を破棄する場合は早めに管理者に連絡しよう。



[画像] 様々な吊い



CHAPTER 7

薬術

MEDICINE

シシク・ハノン CICIC.HANON

生活空間の大魔導士

1. 薬術の特徴

薬術は、物質を用いた儀式で魔法を引き出す引き出しである。

薬術は魔封期間に盛んになり、炊事を担当する女性が行うことが多かった。しかし実際には薬術の適正に男女差は無い。

薬術は準備や儀式の成立条件にコストがかかるものの、魔法粒が少ない地域でも比較的效果を得やすい特徴がある。

薬術は物質を用いて魔法を引き出すが、引き出しは儀式全体によるものであり物質を揃えるだけでは効果を得ることはできない。

完全直接契約魔法

また、儀式の方法は個々人が独自に開発する必要があり、一切共有ができない。これを完全直接契約魔法という。薬術は個人のセンスが最も影響する引き出しといえる。才能があれば師匠につかず、独学で確立することもできる。

ただし独学で薬術を身に着けた場合、危険な儀式や物質の組み合わせについての知識を得られないことがある。独学者も魔法使い協会への申請を怠らず、倫理研修と安全研修を欠かさずに受講しなくてはならない。

2. 薬術の倫理的運用

薬術に使用する物質は魔法学的な要素によって取舍選択されるが、物質である以上、科学的な性質も持ち合わせている。よって薬術の儀式の中で、使用する物質が科学的な反応を引き起こすことがある。

有害物質を発生させる儀式は、特殊な許可を得て実施する以外禁止されている。薬術師は、うっかり科学事故が発生しないように注意しなくてはならない。

よって、薬術を用いる魔法使いには基礎的な科学的知識が求められる。



〔画像〕 工芸による引き出しを得意とする薬術使い

3. 薬草魔法と薬術の違い

「薬術は薬草魔法の引き出し」と思っている者は非常に多い。しかし、薬草魔法は効果分類法による分類であり、引き出し分類の薬術とは全く異なる。

薬草魔法は何らかの引き出しを経由して、心身の魔法学的回復に効能がある物質を発生させる魔法である。

薬草魔法を発動する際に材料となる物質を使用する者は多いが、実際の引き出しは呪文術や杖術である場合も少なくない。呪文術や杖術で引き出す薬草魔法は、材料となる物質を薬に変化させる魔法と言える。

薬術は魔法の引き出しそのものに物質を要するので、薬草魔法を発動する際にも材料をそろえれば良いというわけではない。薬草魔法と薬術の混同は慎むように。



[画像] 呪文術（読字）を引き出しとする薬草魔法使い

ちょっとブレイク

呪薬魔女？

「五行魔導士・呪薬魔女」という言葉を聞いたことはあるだろうか？この言葉は5600年代まで、東西魔法大陸を中心に広がっていた迷信である。「五行魔法は男性魔法使いに向いていて、呪術や薬術は女性に向いている」という内容だが、実際には魔法社会の中枢から女性を締め出すための口実として利用されていた言葉である。

この言葉には①属性と引き出しを混同している、②引き出しや属性の適性に男女差は無い、という2つの決定的な間違いがある。「女性だから薬術が得意、男性だから五行属性の呪文や杖が得意」という先入観は、魔法の研鑽を阻害するおそれがある。思い込みを排し、自分の適性にあった引き出しを採用しよう。



CHAPTER 8

杖術

CANE

サジノオオサキ SAJI-OHSAKI

時空の大魔導士

1. 杖術とは

杖術は物体を集中点として、魔法を引き出す方法である。

杖術は汎用性が高く、簡便な運用ができる。そのため、現在最も多くの魔法使いが採用している。

杖術が主流になったのは、人神戦争の頃からだと言われている。魔法効果を得るまでの時間短縮が求められ、習得に時間がかかる汎用呪文よりも杖を用いた引き出しが採用され始めた。

杖があれば、魔法使いの力量の範囲で様々な効果を得られる。専用呪文には及ばないが、汎用呪文や薬術よりも失敗しづらい。

杖の種類

杖術の引き出し手段には、次のような種類がある。杖、書物、アクセサリー、手、瞳、その他の身体、自然物、空間。

杖術では魔法を引き出す際の集中点を作るために杖を用いる。そのため、杖は棒状の物体とは限らない。

また、非魔法系人類にも魔法が使用できるようになる物体を杖と誤認することも多い。しかし実際には、これらの物体のほとんどは神術や擬神術によって作られた道具である。

2. 杖術の倫理的運用

杖術を用いる魔法使いには、魔法杖取り扱い免許が必要である。所属しているコミュニティに杖の種類と引き出し方法を報告し、所定の講習を受けることで免許を取得できる。

また、魔法には関係なく道徳的観点からも杖の運用には気を付けなくてはならない。引き出しに杖を動かす必要がある者は、周囲の安全を確保してから引き出しを始めなくてはならない。

長さや重さのある杖を使用する者は、持ち運び時や引き出し時の物理的な事故にも注意しなくてはならない。

非魔法人には杖だと認識できない杖もある。書物やアクセサリー、ほうき等の日用品を杖にしている者は、非魔法人が杖を誤認して呪い被害を受けないように、十分に配慮して杖を管理しなくてはならない。

[画像] さまざまな杖



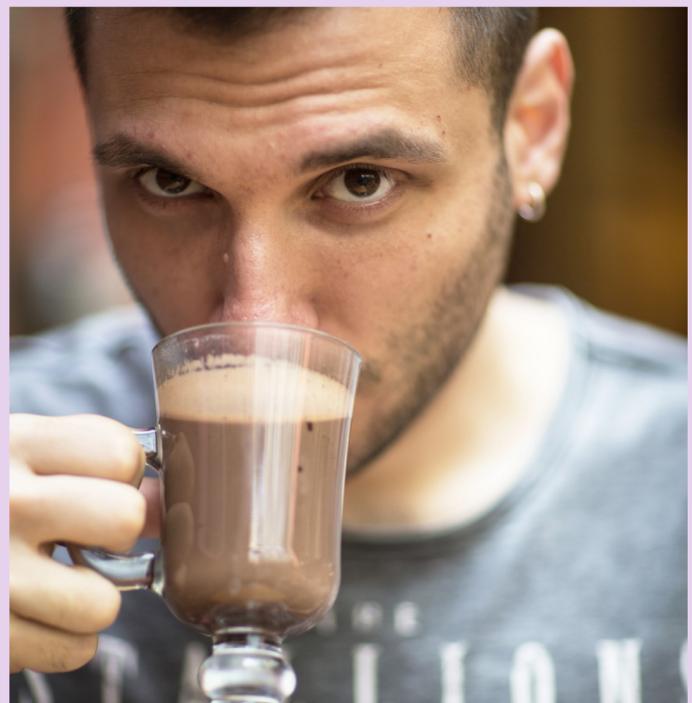
棒状の杖



指・爪



食べ物・カトラリー



飲み物



眼鏡



筆記具・筆



CHAPTER 9

科学的魔法技術

SCIENTIFIC MAGIC TECHNOLOGY

ポクテンジン・ラクテンニン POCTENJIN&RAKUTEMNIN

魔法粒発電の大魔導士

1. 科学的魔法技術の特徴

科学的魔法技術は、科学的技術を基にした機械や技術により魔法を引き出す方法である。

科学的魔法技術は、魔封期間に最も盛んになった引き出しである。機械に魔法効果を付与することで、機械の性能向上や機能追加を可能にする。あくまでも機能のベースは機械にあり、魔法は補助的に使用される。

魔封明け以降ほとんど使用されなくなり、この引き出しを専門とする魔法使いはごく少数となっている。

ただし非魔法人コミュニティで育った魔法使いにはなじみやすく、専門的に技能を磨いた場合の魔法効果もほかに比べて劣るというわけではない。

科学的魔法技術の種類

科学的魔法技術には大別して4種類ある。

①科学的魔法技術、②魔法石技術、③魔法機械技術、④魔法粒エネルギー技術である。

②魔法石技術や③魔法機械技術は最近の魔科学協働研究の花形であり、新大魔導士もこの分野から選出された。

2. 非魔法人や中間的素養を持つ人々との協働

科学的魔法技術は成立背景から科学技術との相性が良く、産業レベルでは非魔法人との連携した引き出しがなされている。科学的知識・技術を持つ非魔法人が機械・機構を制作し、最終的な魔法引き出しを魔法使いが担当するといったチーム引き出しも一般的である。

こういったチームでの引き出しにあたる場合、科学的思考や知識がコミュニケーションの役に立つ。また、「どこまでが科学でどこからが魔法か？」を線引きし、魔科分離を徹底するためにも科学的知見が必要である。

科学的魔法技術に関わる非魔法人には、潜在魔法使いや中間的素養を持つ人々が含まれる場合がある。というのも、科学者にとって魔法学理論は直感的に理解しがたく、魔科学協働に積極的な科学者はもともと魔法の才能がある場合が多いのだ。

科学的魔法技術の大魔導士も、潜在魔法使いや中間的素養を持つ人だった経歴を持つものが多い。

例えば解石魔法の大魔導士メルクメラルドは、65歳まで非魔法人魔法石技術者として生活していた。引退間際に宝石魔法の才能が顕現し、魔法使いとなったのである。

ワープゲートの大魔導士5代目テレポータは、中間的素養を持つ魔法機械技術者の家系に生まれた。彼が40代で大魔導士になるほどの功績を挙げられた背景には、先祖代々開発してきた魔法機械技術のノウハウがあったからだといわれている。

3. 科学的魔法技術の倫理的運用

科学的魔法技術を運用する際には、2点の倫理問題に注意しなくてはならない。

魔科分離の遵守

科学的魔法技術は、科学的機械・技術に魔法効果を与える。この引き出しの性質上、魔科分離に反するリスクが高い。

科学的魔法技術を専門とする魔法使いは魔法学と科学の知識を持ち合わせ、かつ、混同せずに考えられる柔軟な思考を持っている必要がある。

非専門の魔法使いが科学的魔法技術を用いた機械を使用する際には、取扱説明書をよく読み、使用上の注意を確認してから適切に魔法運用することが求められる。

科学的事故の防止

科学的魔法技術による魔法引き出しは、科学的事故を起こすリスクが高い。

日用品や生活機器を科学的魔法技術の引き出しに用いる場合は、想定外の使用による科学的事故が発生しないように注意する。使用上の注意に反する魔法引き出しによって科学的事故が発生した場合、各種保険の補償対象外となる。

魔法引き出し専用で作られた機械・技術を使用する場合は比較的安全であるが、やはり機器に定められた使用上の注意事項は遵守する必要がある。

思わぬ科学事故を防ぐためには、魔法使い協会や機械メーカー各社が開講している安全研修が有効である。定期的に最新の情報を収集し、事故対応能力を磨くようにしよう。



あとがき

「魔法使いは誰よりも世界を愛し、
そして愛されなければならない。」

これは、木々の大魔導士ナナヤが残した言葉です。魔法使いは世界と直接に対話できる、珍しい人類です。しかし、その力は世界を支配するために与えられたものではありません。

私たち魔法使いは、世界をより豊かで美しく、面白くするために魔法を使うのです。一人一人が世界に生まれ出でた意味を検討し、研究に励みましょう。

本書が若き魔法使いたちの研究に貢献することを望みます。

代表著者 花の大魔導士マーデルローズ



文字ノ泉文庫 基礎からスルスルシリーズ

魔法学入門

魔法使いの協会 編



定価：500M,500円 © けんたろう2020 in Japan

発行 神庭6000年8月5日 第1版

発行者 文字ノ泉新聞社 文字ノ泉文庫 トーホン報道国総合メディア左通1-2文字ノ泉ビル2号館

連絡先 <https://mojinoizumi.com/> お問い合わせフォームよりお知らせください